

## 世界と日本の水資源

地球上に存在する水のうちで淡水は2.53%。人類が利用可能な地下水や河川、湖沼水は合わせて1%に満たない。しかも地域により、大きな偏りが存在する。良質な上水を得られない人口は約11億人にもものぼり、そのうちの大多数がアジア・アフリカの発展途上国に暮らしている。

※1 World Water Resources at the Beginning of 21st Century, I.A.Shiklomanov and Jhon C.Rodda,2003をもとに国土交通省水資源部作成。  
 ※2 南極大陸の地下水は含まれていない。

(出典)「平成20年版日本の水資源」国土交通省

図1 地球上の水の量

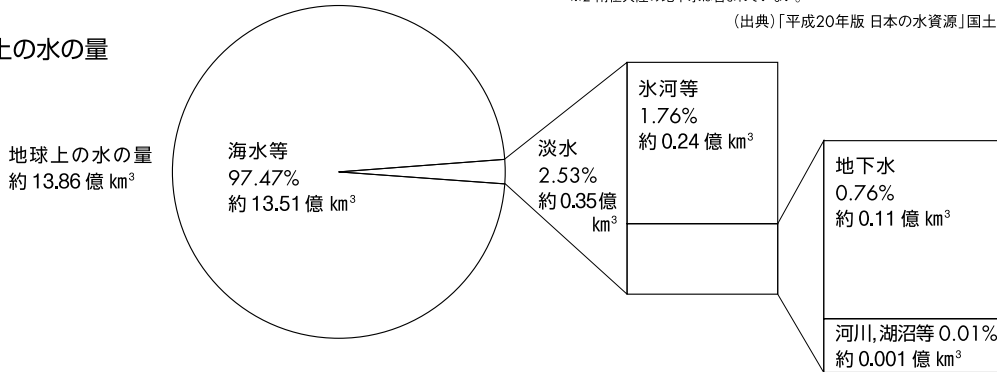
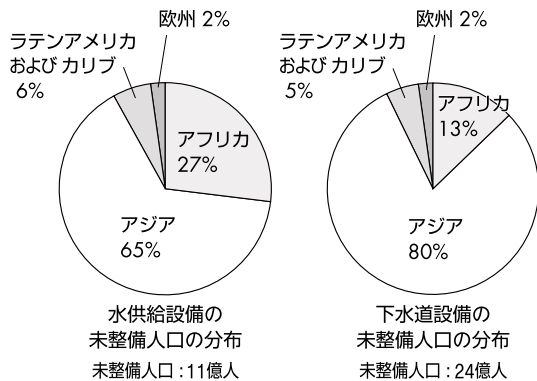


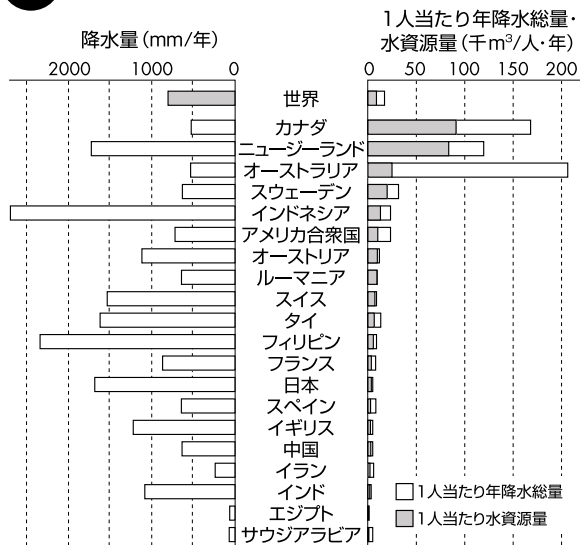
図3 水供給設備・下水道設備の未整備人口の分布



(出典)世界保健機構および国連児童基金の合同調査プログラム(2002年)

降水量が多く水が豊かに見える日本でも、1人当たりの水資源量は各国と比べて多くない。降水量の経年変化では、ここ数年は減少傾向にある。一方、世界における技術の開発可能な包蔵水力はまだ多く、環境保全に配慮しながらの開発が望まれる。

図2 世界各国の降水量等

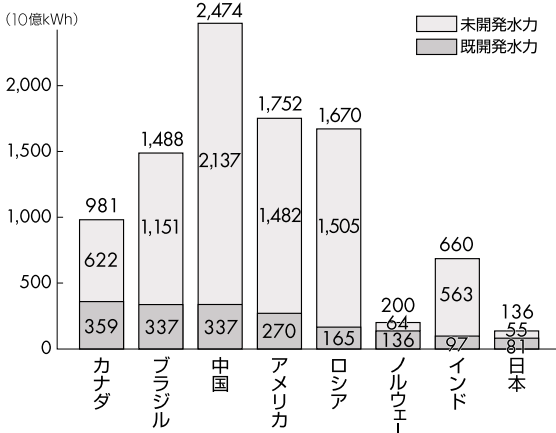


※1 FAO(国連食糧農業機関)「AQUASTAT」をもとに国土交通省水資源部作成。  
 ※2 日本の人口は総務省統計局「国勢調査」(2005年)、平均降水量と水資源量は1976~2005年の平均値で、国土交通省水資源部調べ。

(出典)「平成20年版日本の水資源」国土交通省

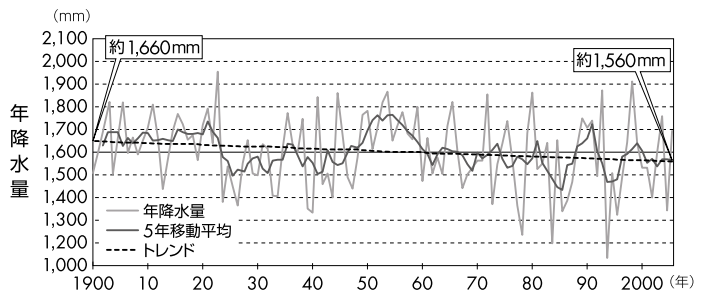
図5 技術の開発可能な包蔵水力

〈既開発水力上位8カ国〉



(出典)「2007 Survey of Energy Resources, World Energy Council」(2005年12月未現在)

図4 日本の年降水量の経年変化



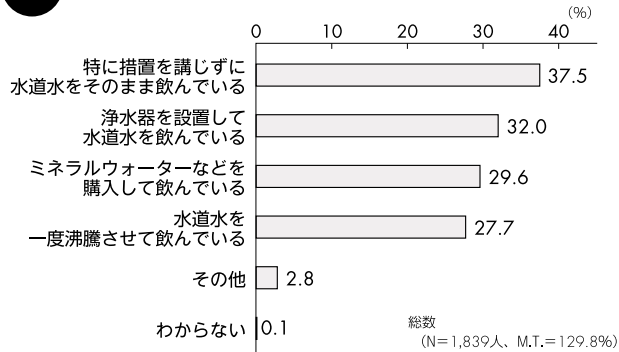
※1 気象庁資料をもとに国土交通省水資源部作成。  
 ※2 全国51地点の算術平均値。  
 ※3 トレンドは回帰直線による。  
 ※4 各年の観測地点数は、欠測等により必ずしも51地点ではない。

(出典)「平成20年版日本の水資源」国土交通省

日本人の意識調査によると、水質悪化や汚染、断水に対する危機意識は高く、飲み水でも、浄水器を利用したり、ミネラルウォーターを購入する率が增大してきている。一方、普段の生活で節水に努めている人も年々増えており、節水は考えていないという人は減少している。

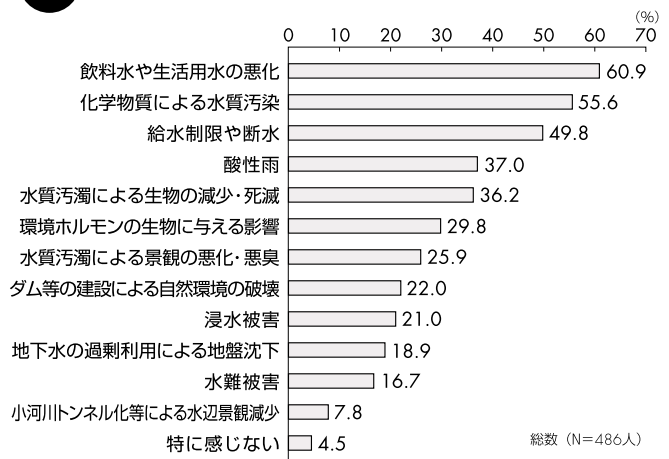
## 家庭で使う水と飲む水

図7 飲み水について (複数回答)



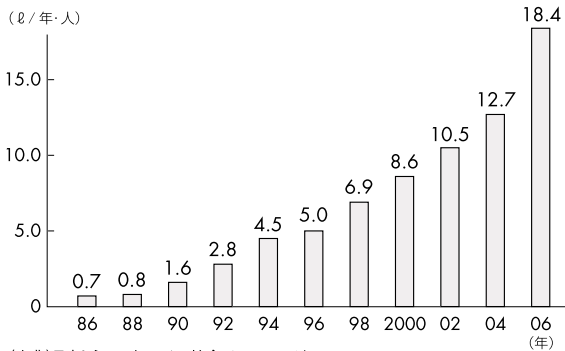
(出典)「水に関する世論調査」内閣府(2008年6月)

図6 水に関する不安・心配 (複数回答)



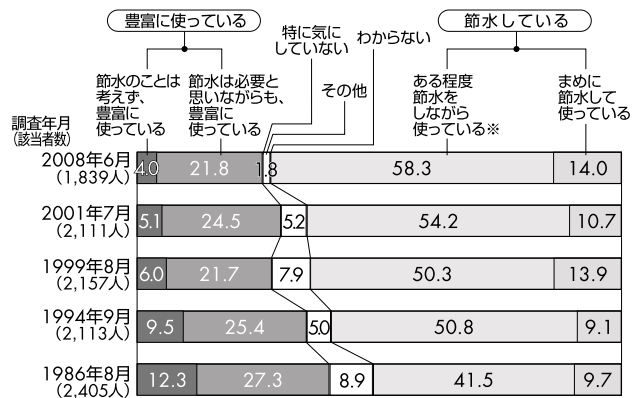
(出典)「第14回 水にかかわる生活意識調査」ミツカン水の文化センター(2008年)

図8 ミネラルウォーターの1人当たり年間消費量推移



(出典)日本ミネラルウォーター協会 ホームページ

図9 家庭での水の使い方



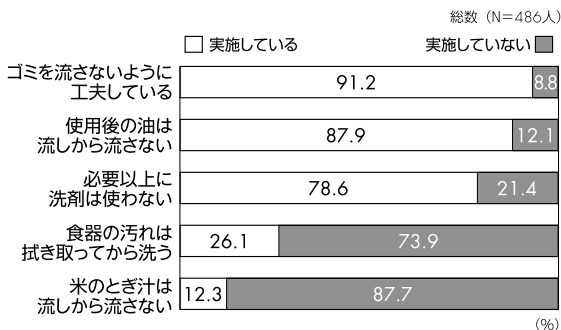
※ 1999年8月調査までは、「多少節水しながら使っている」となっている。(%)

(出典)「水に関する世論調査」内閣府(2008年6月)

## 家庭での心がけ

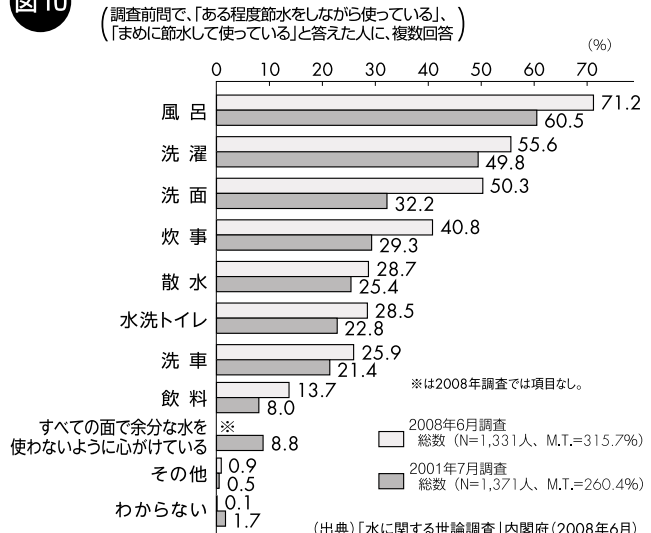
お風呂や洗濯などでの節水を心がけるとともに、水を汚さないようにも配慮し、「ゴミを流さないように工夫している」は全体の約9割、「必要以上に洗剤を使わない」も8割近くになっている。

図11 家庭で行っている水質保全のための配慮



(出典)「第14回 水にかかわる生活意識調査」ミツカン水の文化センター(2008年)

図10 家庭で節水を心がけている面



※は2008年調査では項目なし。

2008年6月調査  
総数 (N=1,331人, M.T.=315.7%)  
2001年7月調査  
総数 (N=1,371人, M.T.=260.4%)

(出典)「水に関する世論調査」内閣府(2008年6月)